『おくのほそ道』ジグソー学習の実際

学習課題についての調べ学習

どの生徒も、グループの中での自分の分担が明らかになり、目標をもって学習していました。調べたことをノートなどに意欲的にまとめていく姿がたくさん見られました。友達と相談しながら、あるいは意見を交わしながら楽しく学習している生徒が多くいました。

中には、調べ学習を進めていく過程で実際に現地に赴き、資料を集めてきたり、写真を撮ってきたりして、資料作成に役立てる生徒も出てきました。

発表ワークショップの開催

店員役と質問をするお客さん役の人数のバランス、ならびに質問カードを使用することを確認してからスタートさせました。開店の雰囲気を出すために、お客さん、すなわち各ワークショップをまわって質問をする役の生徒には、いったん廊下に出てもらい、鐘を鳴らしてから入室してもらいました。予想以上にどの生徒も活発に動いており呼び込みまで始める生徒も出てくるくらいでした。

説明と質問も予想以上に活発で、明らかに時間が足りなくなってしまいました。中には、やや資料不足と思われるグループもありましたが、説明でそれを補っていました。もう少し時間を確保できれば、さらに効果が上がったものと思われます。

ジグソー学習による報告会

この学習では、９人グループを４つ作り、それぞれ机を□の形にして報告会を行いました。どのグループも最後まで集中して互いの報告を聴き合い、ワークシートに書き込んだり、質問をしたりしていました。

どの生徒も自分の責任を果たすべく意欲的に生き生きと取り組んでいました。しかし、学習の満足度としては十分ではありませんでした。これは、まず時間が足りなかったこと、次に意欲的に取り組みはしましたが、自分の報告に満足はしていないことが、その要因として考えられます。報告会の前に、時間を設定して報告の練習をさせたり、４人グループでの打合せなどをさせれば、もう少し満足できる学習になったことと思われます。

意欲的な活動に伴う内容の充実度

生徒が意欲的に活動したとしても、内容が伴っていなければ充実した学習とは言えません。今回のジグソー学習では、友達に自分が調べたことを報告しなければならないという責任があるためか、ノートなどにわかりやすくまとめる姿が見られました。

自分のためだけではなく、人に伝えるためにはどのようにまとめればよいのかという視点が生まれ、今までよりもまとめ方は格段によくなったようでした。相手意識の重要性を再確認することができました。

今回は、『おくのほそ道』の行程の中でも、福島県特に福島市に関わる部分を数多く学習コースとして設定しました。そのためか、興味・関心をもって話を聞いたり、資料を見たりする姿が見られました。松尾芭蕉が福島県を通ったことは知っていても、詳しいことは知らなかったところに、今回の学習により、一気に知識や情報が増え、郷土への理解が進み、古典学習への意欲も高まったようでした。